

総務文教常任委員会

子供の歓声が聞こえる 幼・保育園児は甘楽町の2倍 長野県南箕輪村を視察

総務文教常任委員会 柳澤清次

この10年で人口が1千人以上増加（甘楽町は1千人減少）、2040年までの人口予測でも減少が圧倒的に多い地方町村の中において、唯一増加が見込まれている長野県南箕輪村（人口1万5040人）を、社会産業常任委員会と合同で視察訪問しました。

甘楽町と人口が同規模の村にあって、保育園の入園児は671人と甘楽町の保育園・幼稚園児を合わせた322人を2倍以上上回っており、10年前と比べて130人増えているという。平均世帯人員は2.6人、高齢化率（65歳以上の人口）も21.7%（甘楽町26.2%）と、子供の歓声がきこえるような若い村を形成して

います。

村の財政面を見てみると、村民税が甘楽町より5億円も多く計上され、この環境をつくっているのは良質の雇用があり、所得があるということではないかと思いました。



社会産業常任委員会

人口増加率 日本一

石川県川北町を視察

社会産業常任委員会 山崎愛子

日本創世会議の報告で日本一の人口増加率の町として名前が挙がったのが川北町です。

同町総務課長のお話によると、マスクミなどは流入による人口増を狙ったように報道しているが、そうではなく30年以上の長い取り組みの中で、住民サービスを一つ一つ充実させていった結果がこのような評価につながったそうです。

具体的な施策には、子育て支援では保育料は第1子は1万2000円だが第3子以降は実質無料、18歳未満の医療費は無料。他にも水道は基本料のみで、定量を超えた場合に使用料が発生する仕組み。こうして住民のニーズを一つずつ丹念に具体化した結果な

のだそうです。

さらに宅地が安価なので、若い夫婦が定住しやすいのも効果を上げています。

我が町としてもこれらを学び実現していかうと、大変有意義な視察となりました。

